

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270104013
法人名	合資会社 ハッピーパーク
事業所名	グループホーム ハッピーパーク夢が丘
所在地	長崎県長崎市小江原5丁目25-10 (電話) 095-842-9866
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月17日

【情報提供票より】 (平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 1月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 11人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つるた内科医院、まつなが歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

まだ自然が多く残る新興住宅地の中に「ハッピーパーク夢が丘」はある。認知症の方々に悲しい思いをさせたくないという施設長の強い思いから自分でホームを設立した経緯があり、その思いが反映された温かみのあるホームとなっている。職員は利用者の自主性を重んじなるべく手をださないよう見守り、ホームで暮らしていく中で利用者を楽しみを演出し笑顔で暮らしていけるよう支援している。また、介護計画においては日課計画まで細かく計画され利用者重視の計画が作成されている。ホームは一般の住宅として造られハード面とソフト面からもグループホームらしさがうかがえ、ホーム名の通り笑顔の絶えないハッピーなグループホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	バイタル等の記入漏れについてはきちんと記入がなされ、各種報告書はそれぞれの報告書別にきちんとファイルされていた。評価の改善項目は職員に公表し、改善に向けての指示を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対しては管理者がおこなっており職員の参加はなかった。今後は、全職員で自己評価に取り組みホームの強みや弱みを共有し改善のための気づきとなることを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは、自治会長、民生委員、地域包括センター職員、地域ボランティア、利用者家族などで構成されている。主な議題は、行事实施報告、行事目標、自治会入会、消防設備設置報告などである。討議内容を活かした取り組みとしては、会議の議事録を推進委員に配布するようにしたことや住吉のバザーを毎年開催するようにしたことなどがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者や家族が意見等を表せる機会として内部では利用者相談委員会を設置している。また、外部では長崎市役所や国保連合会を相談窓口とし、重要事項説明時に説明している。家族からの要望としてホームにスプリンクラーの設置があり要望どおり設置された。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	サンハイツバザーやまるたか祭りなど地域の行事に利用者とともに参加している。また、町内の自治会がないため隣町の自治会に期限付きで入会させてもらい交流を図っている。町内での近隣との付き合いは今のところあまりないため自治会入会をすすめるなど取り組みを行っている。

2. 評価内容(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お年に関係なくこれまで生きてこれられた自分らしい普通の生活を地域の一員として笑顔の虹に彩られたぬくもりのある家でありたい」が理念である。これは、代表者が笑顔を絶やさない、悲しい顔をさせたくないということから生まれたものである。利用者が地域の中で楽しく暮らせるようにとの願いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するために、新人研修にて職員へ理念の説明を行う。また、理念を実践するための具体的なポイントとして職員の顔をチェックしいつも笑顔であるかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	サンハイツバザーやまるたか祭りなど地域の行事に利用者とともに参加している。また、町内の自治会がないため隣町の自治会に期限付きで入会させてもらい交流を図っている。町内での近隣との付き合いは今のところあまりない。	○	近隣の住宅地が若い世代の住民ばかりで自治会活動などにあまり理解がないようだが、もっとホームの広報を行い存在をアピールしご近所付き合いができるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員の参加はなしで管理者が行った。また、前回の外部評価については職員に改善項目を公表し、書類の記入漏れの改善や報告書の整理など改善を行っている。	○	自己評価については職員も全員参加し、それぞれがホームの強みや弱みを知り、常にホームのサービスや職員の処遇が向上するような仕組みができることを期待する。

グループホーム ハッピーパーク夢が丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では合歓の木自治会入会についてや行事の実施と報告、次回の行事目標などが議題となっている。討議内容を活かした取り組みとして議事録を推進会議参加者全員へ配布することや住吉でのバザーを毎年開催することなどが決まった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの担当者と定期的に連絡を取り質問や相談を行っている。また、介護相談員の受け入れを積極的に行い利用者との面談から得た情報をサービスに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは家族の訪問時に行っている。小遣いは直接受け取るためその時に金銭出納帳をみてもらいサインをもらっている。また、年に4回ハッピー通信というホーム便りを送りその時々の利用者の様子を報告している。職員の異動については家族への報告は特に行っていない。	○	職員の異動等についてのダメージ軽減の対策は行っているが、異動の場合の家族への報告についても必ず行い対応などについて家族へも相談するなどの取り組みを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見等を表せる機会として内部では利用者相談委員会を設置している。また、外部では長崎市役所や国保連合会を相談窓口とし、重要事項説明時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	すべての利用者に対しすべての職員で対応しているため異動によるダメージを軽減できている。また、離職対策としては職員の悩みなどを聞くことがあげられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では新人研修や資格取得のための勉強会を実施し職員を育てている。また、外部研修については希望する研修には参加できる体制が取れている。また、受けてもらいたい研修は職員の職種や資格に応じて管理者が指名して受講してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に積極的に参加し同業者間の情報の共有を行っている。また、連絡協議会での研修会にも参加し、さらに、連絡協議会のメンバーの中で相互訪問を実施し互いに研鑽している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居する前に健康状態や生活歴などを記入する利用申込書を書いてもらいその時の状況を把握し宿泊体験などを通して徐々にホームの雰囲気に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日頃から利用者の気持ちに近づいていこうという気持ちで接しており、同じ時間を歌を歌ったり新聞で袋を作ったりして過ごしている。また、漬物の付け方や畑の耕し方など一緒に過ごしながら自然に学びそのことでお互いが支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望は利用申込書に記入しており把握している。また、個々の性格を念頭に置き声かけを行い把握に努めている。表現が困難な利用者については体に触れることで表情などを読み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やその家族との面談により基本情報調査表を作成し、それをもとに短期・長期はもとより日課計画までの介護計画を職員とケアマネージャーで作成している。いったん出来上がった計画は利用者や家族に確認してもらい同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度モニタリングを行うとともに、職員の記録による利用者の日々の変化等の情報をもとにして職員間でミーティングを行い、最低でも6ヶ月に一度の計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者各人の希望に応じて、通院や美容院等への送迎など必要な支援については柔軟に対応している。また、事業所内でディサービスも行われており利用者同士の交流も盛んである。		

グループホーム ハッピーパーク夢が丘


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用者からのかかりつけ医への通院介助、個人往診など複数の医療機関と関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の協力を得ることができれば、ターミナルケアまでの支援をしていきたいという考えは共有できている。しかし、本人や家族、かかりつけ医と話し合いターミナルケアについての方針を共有するところまでは今のところできていない。	○	ターミナルケアについては、先ず職員間で納得のいくまで話し合いを深め、共通理解を得た上でさらに家族との話し合いを重ねて終末期に向けての方針をどのようにするのか決めることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに対しプライドを傷つけるような態度や声かけは行っていない。また、利用者の個人情報の取り扱いについては同意書をとっている。職員については入社時にプライバシーに関する誓約書を提出させ確認をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各人のペースを把握するため常に待ちの姿勢、自主性に任せるなど心がけている。一人ひとりの体調を配慮しながらできるだけ個別性のある支援を行うようにしている。		

グループホーム ハッピーパーク夢が丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についてはホームの畑でとれた新鮮な野菜を使い調理している。利用者と職員はともに同じ食卓で同じ食事をするようにしている。また、食事中は音楽を流したり職員から話しかけて会話をするというのを忘れないよう心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については週に2回と決めているが、浴室がディサービスとの共用になっているため随時入浴できるようになっている。入浴拒否の利用者については家族の訪問で入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野で張り合いや喜びを感じてもらっている。例えば、畑仕事、交代での犬の散歩、食器拭きや後片付けなど自主的に動いてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所所有の畑の野菜の成長を見学したり近くの運動公園までの散歩など意識的に戸外へ出かける支援をしている。また、年間の行事計画により外出の機会を増やしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や裏口には夜間以外鍵をかけないようにしている。利用者が戸外へ出たいときは、一言声をかけるよう約束事とするなどの対策を実施している。		

グループホーム ハッピーパーク夢が丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や家族に参加してもらい夜間想定で年2回の避難訓練を実施している。訓練の時には自治会には協力を得ている。また、同時に消火訓練も実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分の摂取量については利用者各人のチェックを行い記録をとっている。また、栄養のバランスを保つため食品成分表を身近に置き利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者共同でひな祭りや桜の花を作って貼り付け手作りのカレンダーを制作し壁に飾っている。また、共用空間の光に対してはカーテンで調整され、音に関しても不快にならないよう職員が配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた家具、調度品が多く持ち込まれ利用者一人ひとりの個性が出ており、利用者の部屋として居心地の良いものとなっている。		

※  は、重点項目。